

# 令和4年度「しがこども体験活動実践交流会」

～コロナ禍における活動と工夫を考える～

子どもの体験活動や青少年教育に関わる機関・団体の企画運営担当者等を対象に、事例紹介や情報交換等を通して、青少年の体験活動の充実や活性化を図るとともに、各機関・団体の連携を推進する機会とすることを目的として実践交流会を実施しました。



【日時】 令和5年2月8日（水）13：30～16：30

【会場】 滋賀県庁 新館7階 大会議室

【対象】 「しがこども体験学校」登録団体、行政関係者（市町教育委員会、公民館・コミュニティセンターで子どもの体験活動を企画運営する職員）、社会福祉協議会、地域での子どもの体験活動関係者、協力者団体 等

【参加者】 67名（来場36名、オンライン31名） ※オンライン併用

【内容】

13:00 受付

13:30 開会行事（開会挨拶、日程説明）

13:35 事例紹介

① 「地域での子どもの体験活動」の取組

東桜谷地区さくらっ子通学合宿

東桜谷地区通学合宿実行委員会 委員長 嶋村 昌宏 氏

② 「しがこども体験学校」登録団体の取組

高山キャンプ場におけるしがこども体験学校

滝と溪流の高山キャンプ場 安藤 賢 氏

14:50 グループ別情報交換

15:50 発表

16:20 閉会



【事例紹介】

## ●「地域での子どもの体験活動」の取組

東桜谷地区通学合宿実行委員会の防災学習を取り入れた通学合宿の取組をご紹介します。防災テントの設置や非常食体験、避難訓練に消火訓練、放水体験などの防災学習をはじめ、地域の方によるマジックショーや花火など、盛りだくさんの内容で実施いただきました。コロナ禍でも工夫をすれば様々な体験活動ができること、地域や学校と連携することで活動の幅が広がり、充実した体験活動ができることを教えていただきました。

## ●「しがこども体験学校」登録団体の取組

滝と溪流の高山キャンプ場での雄大な自然を活かしたプログラムについて御紹介いただきました。豊かな自然に触れることで、子どもたちが生き生きと活動し、自然の不思議をたくさん発見していく様子が伝わってきました。活動を持続させるために、感染症対策をしっかりとられていること、充実した活動となるように、活動内容や参加形態を状況に応じて工夫されていることを教えていただきました。

## ●グループ別情報交換

「コロナ禍における活動と工夫を考える」というテーマで話し合っていました。幅広く様々な所属の方に参加いただいたことで、話が広がり、いろいろなアイデアを共有していただく大変良い機会となりました。

## ●参加者のアンケートより抜粋

### 《事例紹介①について》

- ・通常の学校生活の動きの中で防災に関する学習を組み込んだ取り組み形式がよいと感じました。防災学習での「身近で起きた過去の災害から学ぶ」という視点は、他人事ではなく自分事として、子どもたちにも関心を持って聞いてもらえる学習の切り口であると感じました。
- ・一人用の防災テントの活用、一定方向を向いての黙食等、感染予防対策が徹底されており、保護者の方々も安心して子どもを参加させることができると感じました。
- ・「地域の子どもたちは地域で育てる」という理念に基づき、非常に有意義な活動をされていると思います。宿泊にはリスクもある中、少人数でもきっちりと対応できる土台作りをしっかりとされているのだと思います。
- ・子どもと地域のつながりをもったすばらしい活動でした。近年少子化に伴う子ども会活動もなくなってきており、また、近所の付き合い方も変わってきている中、防災面とこれからを見据えた大変良い活動事例でした。参考にさせていただきます。

### 《事例紹介②について》

- ・夏の時期にマスクを着用することがどれほど大変か理解できる中で、このような取組を実施している指導員の方々には頭が下がる思いです。
- ・子どもたちの体験活動において、森や川など、自然を相手にした良い体験をされていて、素晴らしいと思いました。
- ・自然の中で本物に触れる体験をすることで、子どもの生き物に対する考え方が変わると思いました。
- ・子どもたちが自然に触れる機会が限られている中で、その場を提供できる貴重な場所なのだと思います。スタッフが少ない状況でいかに運営していくか、工夫されていることが伝わってきました。
- ・コロナ禍が落ち着き、野外活動等に行けるようになれば、ぜひうかがってみたいです。

### 《グループ別情報交換について》

- ・普段交流する機会がない様々な活動団体の方と活動の課題や工夫等を意見交換でき、大変参考になりました。コロナに対しての対策や考え方、基準をどこに置くかを知ることができました。
- ・各々に頑張ってきたことを話し合い、できないことよりできることに目を向けることが目標となりました。
- ・障害者の方への対応は、やはり当事者に接することが最も理解できることだと感じました。勝手な線引きをせず、接していけたらと思います。
- ・他業種の方と話す中で、直接的に活用することは難しいことも、少し工夫することで取り入れられることもあったので、実践していきたいと思います。



### 《全般について》

- ・コロナ禍だからこそ、今まで以上に意見交換が必要だと感じました。
- ・幅広い立場の方から様々な意見を聞くことができ、非常に有意義な時間でした。新しいつながりをつくることもでき、本当に参加できて良かったです。
- ・基本的な感染対策を徹底したうえで、参加される方々、そして送り出される保護者の方が心配することなく楽しんでもらえる場を提供できるよう努めていきたいと思います。
- ・やらないという選択ではなく、工夫をしながら子どもたちに夢や希望を与える取組を考えていけたらと思います。様々な制限がある中でいかに子どもたちに楽しく体験してもらえるか工夫をし、考え続けることが大人の役割なのかなと思いました。